



帯山小学校だより

No.11 R5.12.22 文責 校長 西方 浩一

良いお年を
お迎え下さい。



お世話になりました。来年もよろしくお願ひします。

本日、2学期の終業式を迎えました。今学期は、脱コロナで予定通りに、6年生の修学旅行、5年生の集団宿泊教室、各学年の見学旅行、そして、音楽会など行うことができました。この間、保護者や地域の皆様には、学校の環境整備、登下校時の見守り、スポーツ活動のご指導、また、子どもたちが喜ぶ行事やイベントの開催など多方面にわたってご尽力いただき、ありがとうございました。

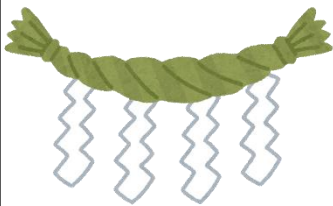
来年も職員一丸となって「愛（あい）のある子どもが主役の学校づくり」を行ってまいります。皆様の変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。

2学期終業式 校長講話

今日の終業式では、4月からこれまでを振り返り、各学年に「タマにゃん大賞」を贈りました。1年生「元気いっぱい遊んだで賞」、2年生「挨拶が上手にできたで賞」、3年生「友達がたくさん増えたで賞」、4年生「けじめのある行動ができたで賞」、5年生「集団行動が上手になったで賞」、6年生「心の体も成長したで賞」。いかがでしょうか？



また、冬休みには、①道路への飛び出しは絶対にしない、②お金の使い方を考える、③火事に気をつける、の3点を約束しました。自分や友達・家族の命を大切に「自分の命は、自分で守る。」を合言葉に、健康で楽しい冬休みにしてほしいと願っています。そして、3学期の始業式には、みんな笑顔で会えることを楽しみにしています。



今年も手作りのしめ縄で

今月9日（土）はPTAしめ縄作りが行われました。師走とは思えない暖かな気候に恵まれ、青少年育成協議会の皆様のご指導の下、伝統行事に汗を流しました。今年も、新たな年を飾る学校のしめ縄は参加した職員の手作りです。青少協やPTAの皆さんのご指導の甲斐あって、今年も、力強い、いいしめ縄ができました。年末から玄関に飾りますので、学校にお越しの際はぜひ一度ご覧ください。

「共に生きる社会は、共に学ぶ社会からはじまる。」

今月5日（火）、くまもと障害者労働センター代表の倉田哲也さんを講師として迎え、人権集会を行いました。倉田さんは「障害は、不自由だが、不幸ではない。」「障害者差別をなくしたい。出会ったことで感じてほしい。」という願いを持って多くの学校でお話をされています。この日も「共に生きる社会は、共に学ぶ社会からはじまる。」



という思いを熱く語っていただきました。今回の出会いを、これからの帯山小での仲間づくりに生かしていきます。